



氣田 量子 (自民公明クラブ)

地域包括支援センターに

わかりやすい名称を

「高齢者のあんしん相談所」と

サブ看板を設置する

議員 4月から地域包括支援センターを1カ所から3カ所に増設し、高齢者の相談や支援を充実させたが、名称が難しく、高齢者のための相談窓口であることが市民に周知されていない。見ただけで誰が利用できるのかわかるように名称をつけて足しては。

議員 今年度、国は40歳以上のひきこもりの実態を調査することとしており、対応に本腰を入れている。生活困窮者自立支援法に基づくひきこもりの社会復帰支援をどのように進めるのか。

議員 子育て世代の女性の社会進出に、祖父母による保育で支援が求められている。昔と今の育児の違いを紹介している祖父母手帳のような子育てのハンドブックを作る考えは。

健康福祉部長 「高齢者のあんしん相談所」というサブ看板を、各センターの入り口等、見やすいところに設置するよう進め

健康福祉部長 健康増進課で、保健師による個別相談、専門医による「こころの相談」を行っており、必要に応じて青森県ひきこもり地域支援センターとも連携をしております。また、生活福祉課で生活困窮に関する相談を行っています。相談福祉医療、就労等、各窓口の連携のもと、ひきこもり

健康福祉部長 市は、乳幼児健診に同行した祖父母や保護者に対して保健師や助産師等による講話や個別相談をしたり、乳児家庭訪問の際に、その家庭の状況に応じて祖父母に育児等に関する情報提供をしたりしています。祖父母手帳については、他市の状況を踏まえ、調査研究したいと考えています。

DMO設立に向けたスケジュールは 来年4月の業務開始を目指す



櫻田 百合子 (市民連合クラブ)

月から業務開始できるように取り組んでいきます。

議員 人材の確保をどう進めるのか。

観光商工部長 企業からマーケティングなどができる専門的な人材を派遣してもらおう可能性を検討しています。地域観光資源の発掘から誘客に関する専門知識を持ち、戦略策定や活動のリードができる人物像を思い描いています。また中核人材の育成や中期的な組織づくりも重要と考えており、秋ごろまでに見通しをつけたいと考えています。

の重症化予防の取り組みは。

議員 糖尿病患者数の実態は。

健康福祉部長 糖尿病の早期発見・治療に向け、医師が従事し、必要に応じて受診を勧めている点や、看護師・保健師・栄養士も従事し、測定結果をもとに栄養や運動等の相談や支援ができ、予防意識を高めている点です。



新設された東地域包括支援センター

議員 十和田版DMO設立に向けたスケジュールと進捗状況は。

観光商工部長 DMO組織化に向けた取り組みと観光業務の移行について市観光協会と十和田湖国立公園協会の各総会でご理解いただきました。平成31年2月末までに観光庁への候補法人登録申請、3月末までに法務局への法人登記を完了させ、4

議員 糖尿病性腎症

議員 糖尿病性腎症



糖尿病の早期治療で人工透析回避へ